

# 魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚病対策指導事業)

後藤悦郎・清川智之

## 1 研究目的

種苗生産・中間育成・養殖時に発生する魚病を予防し、被害を最小限に抑えるため、水産生物の疾病診断、防疫指導を通して、飼育担当者の防疫技術の向上を図り、魚類養殖増養殖を推進する。

## 2 研究方法

飼育担当者から持ち込み、または巡回指導時に入手した標本を検査に使用した。

## 3 研究結果

本年度の疾病検査結果は下表の通りであった。

月 日	魚 種	発生場所	魚病診断結果・養魚指導内容等
4月19日	アワビ	鹿島町	1月よりへい死。悪い水槽は1,000個/水槽飼育中50個/日へい死。外観的な異常は特になし。細菌、寄生虫検査は陰性。
5月10日	ヒラメ	鹿島町	中間育成ヒラメ稚魚75,000尾のうち500尾/日の割合でへい死した。種苗に大小差があり水槽表層に小型魚が浮遊遊泳していたことから選別不良と判断した。水槽数が少なく選別に支障をきたしているが、出来るだけ行うことを指示した。
5月20日	ヒラメ	大社町	斃死原因調査を行った。ヒラメ稚魚が食欲不振となり、稚魚1,000尾がへい死した。細菌検査、寄生虫検査等では原因は認められなかった。取水ポンプは、通常2台交互運転をしているが、その1台から原因不明の汚物が混入することがわかった。汚物の混入しないもう1台のポンプのみを使用した。
5月23日	ヒラメ (1オ)	浜田市	筋肉内出血、鰓腐れ及び体表の潰瘍を主症状とする疾病が発生し、毎日数～数十尾がへい死した。体表や鰓には僅かに滑走細菌が観察された。細菌検査で連鎖球菌症と診断した。
6月10日	タイリクスズキ	島根町	フィレー肉質異常の検査を行った。活魚をフィレーに調理した時は異常がないが、経時的に全面に5～10mmの白濁した点が出現した。消化酵素の関与が考えられた。
6月14日	アワビ	鹿島町	1月よりへい死が継続し、5,500個飼育中トータルで1割へい死した。症状や検査結果は4月と同様で原因不明。
7月13日	ヒラメ (0オ)	浜田市	筋肉内出血、鰭や体表の潰瘍、腹水を主症状とする疾病が発生し、1日数十尾がへい死した。細菌検査で大半が連鎖球菌症で一部エドワジェラ症であった。
9月21日	ソデイカ	松江市	ソデイカ肉中に白い筋が認められた。検査の結果、寄生虫ではなく、神経線維に関連したものではないかと思われた。
9月27日	オニオコゼ	浜田市	餌食いが低下すると同時にへい死が始まった。鰓を検鏡した結果白点病であった。淡水浴試験の結果効果があることが判明したので淡水浴を行うよう指導した。
11月19日	アワビ	益田市	現地養魚指導
11月19日	ヒラメ	浜田市	現地養魚指導
1月5日	アワビ	多伎町	飼育施設建設予定地水質検査及び指導。
2月15日	アワビ	鹿島町	付着力が弱くなり、次第に衰弱斃死した。1日平均約20個体斃死した。細菌及び寄生虫は確認されなかった。現在原因は不明であるが、数種類の飼育管理条件にて経過観察中。